

— 広域地方計画 骨子(イメージ) —

第1部 計画策定の意義と計画の性格

<p>1 策定の意義</p> <p>○広域地方計画策定の背景と目的を以下の観点を盛り込みながら記載する</p>	<p>2 計画期間</p> <p>○本計画の計画期間を明記する</p>	<p>3 計画の性格</p> <p>○本計画に盛り込むべき内容や、策定後の活用のあり方を以下の観点を盛り込みながら記載する</p>
--	--	--

第2部 四国圏域の発展に向けた基本方針

第1章 四国を取り巻く状況

1-1. 四国の特徴

- ①100万都市は存在しないが、四国は、地勢的に厳しい条件の中で、瀬戸内、山間部、南四国、島しょ部など個性ある多様な地域が存在
- ②美しい自然や農山漁村などの人々の営みがつくり出す美しい景観や歴史・文化が存在し、日本の原風景が残る
- ③独自の歴史、文化が存在し、お遍路やお接待の文化など、四国共通の歴史・文化に加え、ボランティア活動も盛ん
- ④四国では、県庁所在都市間が概ね2時間で交流が可能であり、南四国の半島部を除けば、中山間地の集落から概ね90分で県庁所在都市まで交流が可能

1-2. 四国の課題

- ① 全国に先駆けた人口減少や少子高齢化の進行
 - ・高齢化は全国より約10年早く進行している。
 - ・多様化する価値観やライフスタイルに応じた魅力が不足
- ② 災害や環境に対する懸念
 - ・東南海・南海地震による甚大な被害発生が想定
 - ・地球温暖化、瀬戸内海の自然海岸の減少など、自然環境の喪失が進行
- ③ 豊富な地域資源に対する活用の不十分さ
 - ・豊かな地域資源の価値が発揮されておらず、良さがしられていない。
 - ・市場拡大、ビジネスモデルの創出が不十分
- ④ 四国内外における結びつきの弱さ
 - ・交通ネットワーク基盤の整備が十分でない
 - ・四国内の交流が少ない
- ⑤ 中山間地域、半島及び島しょ部等における過疎化
 - ・少子高齢化の進展で限界集落が多数分布
 - ・耕作放棄地の増加など国土荒廃が懸念

第2章 四国圏域の発展に向けた基本方針

2-1. 基本方針

**多様な地域の“自立”と“相互補完”による四国の形成
～地域から日本、世界へ花開き、咲き誇る四国～**

<p>自立の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の魅力の向上のため ・自助と共助の推進のため ・人材の育成と確保のため ・中山間地域の営みの維持のため 	<p>相互補完の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度集積の小ささを補うため ・都市と中山間地域における暮らしの質の向上のため ・地域資源の再発見と活用のため
--	--

2-2. 目標の実現に向けた取組の視点

○自立 “自立”とは「四国の進むべき道や地域のことは、四国に住む一人ひとりが、自分自身で決める」という、主体的に行動する精神に基づくものであり、「人」を育て、「地域資源」を自らの地域で調達し、それを動かす社会的仕組みとして「新たな『公』」を構築することが取組みの基本的視点

○相互補完 “相互補完”とは、一つひとつの個の価値を高めながら、総体としての四国全体の価値を高めていくという考え方であり、「四国内との連携」と「四国外との連携」をそれぞれ促進していくことが基本的視点

2-3. 新四国創造に向けた目標

<p>① 安全で快適な暮らしを実感できる四国 ～心穏やかに暮らせるやすらぎの国～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い地域をつくる ・自然・地球環境との調和を高める ・都市の魅力・快適性を高める 	<p>② 地域が独自性を発揮して自立している四国 ～地域から新たな価値を発信する国～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美しい風土を形成する ・歴史・文化的資源を継承する ・特色ある産業を育てる 	<p>③ 多様な人材が集まり、多様な地域と交流する四国 ～四国をリードする人材を生み出す進取の国～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジア・世界との交流を活性化 ・全国との交流を活性化 ・都市間相互の交流を活発化 	<p>④ 中山間地・半島部・島しょ部に活力があふれる四国 ～日本の原風景がもてなすいやしの国～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の利便性を高める ・地域の魅力を高める
--	--	---	--

— 広域地方計画 骨子(イメージ) —

第3部 四国圏の発展に向けた戦略的取り組み

第1章. 安全で快適な暮らしを実感できる四国 ～心穏やかに暮らせるやすらぎの国～

1-1. 災害に強い地域をつくる
①住民一人ひとりの防災に対する意識の高揚
②東南海・南海地震等大規模災害発生時における被害の抑制と迅速な復旧
③減災に向けた地域との相互連携
④災害時のネットワーク強化
⑤広域的な応援体制の構築

1-2. 自然・地球環境との調和を高める
①自然と地球にやさしい、暮らし方と活動をする人材の育成
②失われつつある自然との共生
③身近な自然保全や環境保全に携わる各主体の育成
④森林や河川流域の適正管理
⑤河川、海洋環境の保全や循環型社会の形成に向けた広域的取り組みの推進

1-3. 都市の魅力・快適性を高める
①地域づくりの担い手の育成
②集約型都市構造の実現と都市機能の充実
③多様な主体が参加できる仕組みづくり

第2章. 地域が独自性を発揮して自立している四国 ～地域から新たな価値を発信する国～

2-1. 美しい風土を形成する
①美しい自然や景観を守り、次世代へ継承する人材育成
②美しい自然を舞台とした地域独自の風景づくり
③自然保全や風景づくりをテーマとする活動組織の育成
④都市と農山漁村の交流促進

2-2. 歴史・文化的資源を継承する
①地域の歴史・文化を継承し、発信していく人材育成
②お遍路や歴史・文化などにおける新たな価値の再発見
③歴史・文化の保全と創造をテーマとする活動組織の育成
④四国ブランド化による歴史・文化面からの四国外へのアピール強化

2-3. 特色ある産業を育てる
①大学を拠点とした地域産業を担う若者の人材育成
②地域資源を活かした創意工夫による産業の高付加価値化
③産学官の連携による産業集積の強化
④物流の効率化による産業間の連携強化

第3章. 多様な人材が集まり、多様な地域と交流する四国 ～四国をリードする人材を生み出す進取の国～

3-1. 東アジア・世界との交流を活性化する
①国際的視野を持った人材の育成
②四国の地域資源の強化と戦略的な情報発信・PR
③港湾・空港等の連携強化
④国際ゲートウェイ機能の強化

3-2. 環瀬戸内圏や全国との交流を活性化する
①四国の魅力を全国に発信できる人材の育成
②四国の地域資源の強化と戦略的な情報発信・PR
③交流を支える四国内外とのネットワークの強化

3-3. 都市圏相互の交流を活性化する
①各都市の魅力を活かした四国らしさの相乗効果の発揮
②四国内における経済・観光・暮らしを支えるネットワークの強化

第4章. 中山間地域・半島部・島しょ部に活力があふれる四国 ～日本の原風景がもてなすいやしの国

4-1. 日常生活の利便性を高める
①自助・共助を主体的に担う人材育成と支援
②ナショナルミニマムとしての生活水準を維持するための基本的な生活サービス機能の確保
③中山間地域等の地域社会を支える「新たな公」の育成
④都市圏と中山間地域等の近さを活かした連携強化
⑤大都市住民の移住・交流の促進

4-2. 地域の魅力を高める
①中山間地域等における生活を楽しむ、支える人材の育成
②自然、歴史、文化、食等の地域が有する豊かな資源の活用
③マルチハビテーションのニーズに応じた環境整備
④四国の中山間地域等における新しい魅力ある暮らし方の先進性の情報発信・PRの推進

第4部 分野別施策プロジェクト(仮称)